



① 本丸殿舎玄関の基礎



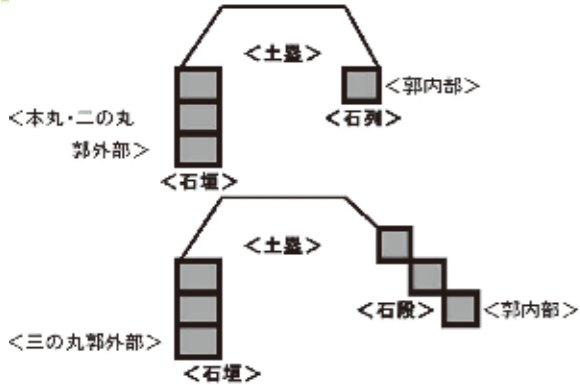
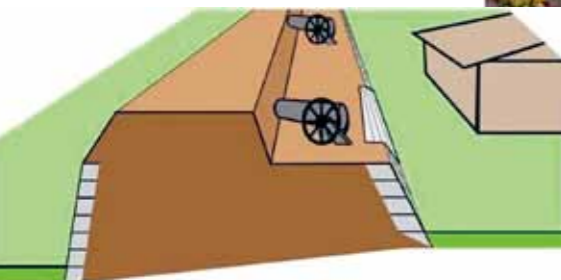
玄関移築の覚苑寺庫裏  
(現況の写真と測量図)

玄関の基礎は、移築された建物と指図に合致することが建物の調査で明らかになり、復元が可能となった。



(参考) 田倉地区に存在した移築長屋

勝山御殿から移築されたと伝えられるもので、間口が広いこと、壁のない構造などから大砲格納庫と推定される。



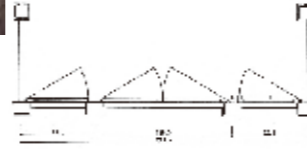
勝山御殿の城壁構造模式図



② 本丸表門の基礎

表門移築の了円寺山門  
(現況の写真と測量図)

表門基礎は雨水などによる影響で礎石などが動いており残りが良くなかったが、規模など概ね移築建物と合致することが判明した。



④ 本丸表北西口脇の長屋基礎



⑦ 本丸表北側堀水堀の痕跡



⑤ 本丸奥排水用の石組溝



⑧ 本丸表の石組井戸跡



⑥ 本丸表殿舎の基礎礎石

発掘調査では、本丸御殿指図に描写された殿舎の基礎が確認された。これにより、建物位置を概ね把握することができた。加えて、殿舎の周辺にあたる箇所では記載されていない城の各施設も発見され、付属施設の存在が窺える。



⑨ 埋没していた二の丸  
城壁発掘状況

二の丸の城壁は調査前には土砂により埋没しており、その存在も把握されていなかった。発掘により、本丸正面を馬出状に円弧に取り囲む構造が確認できた。



⑩(左)、⑪(上) 埋没していた  
二の丸の城壁発掘状況

二の丸城壁は、発掘の結果、本丸スロープ正面や東西端の城壁の一部で、後世の土砂崩れや土地改変により、土塁、および石垣上部の崩落が確認された。ただし、下部が残るため、城壁の配置や規模などが把握できた。



平成26年(2014年)現在の勝山御殿跡の全景



③ 本丸城壁(土塁と石列)

城壁は石積と土塁で構成される。土塁は砲弾を吸収するのに有効であり、幕末期の城壁の特徴である。石積は土塁と城壁を高く積み上げるために施された。城兵は、城壁の後ろに控え、銃撃や砲撃で応戦する。三の丸では土塁上面への昇降用の階段も発見された。



⑫ 二の丸城壁(土塁と石積)



⑬ 三の丸城壁(昇降用階段)



⑭ 三の丸城壁(内側石列)



⑮ 三の丸大手口正面



⑯ 三の丸大手口、および横矢柵形

三の丸城壁は勝山御殿の最前面の防衛ラインとなる。高さは無いものの上面に大砲を据えるため奥行きが広い。城郭城壁というより砲台の様相を呈する。大手口は大砲を出し入れするため階段はない。大手口横には前面に大きく突出する特徴的な横矢柵形が存在する。